

日本産業衛生学会

第80号 2024年4月5日

産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局
〒160-0022

東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内

TEL 03-3356-1536

FAX 03-5362-3746

e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



巻頭言



『社会情勢は労働生産性向上を求めている。 産業医はどうする?』

日本製鉄株式会社 関西製鉄所 岩根幹能
一般財団法人NSメディカル・ヘルスケアサービス

2023年度より近畿地方会産業医部会長を拝命しました岩根幹能（いわねまさたか）と申します。せっかくいただいた機会なので、「なんかおもしろい近畿産業医部会」を志向したいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

最近、素材メーカーのテレビCMをよく見かけます。その理由は言うまでもなく人材確保のため。今年4月には運輸・建設・医療の3業種で働き方改革猶予期間が終了し、人手不足に拍車がかかります。震災復興は待ったなしの状況で、2025大阪・関西万博は予定通り開催できるのか、とても心配です。コロナ前の2019年、働き方改革スタートに関する研修会で示された未来予測が印象的でした。「2030年、生産年齢人口減少により労働力が640万人不足する。それを補うため、高年齢労働者160万人、女性労働者100万人、外国人労働者80万人をそれぞれ増加させ、治療と就労の両立支援も進めるが、それでも300万人不足する。たとえ儲かっていてもブラックな企業は淘汰される」と。

日本のものづくりは国力の象徴でしたが、労働力が安価な海外との厳しい競争が長く続いています。日本企業はギリギリの合理化を重ね、筋肉質になることで対抗してきました。一方、名だたる大企業の品質偽装問題が次々と明るみに出ています。「裸の王様」経営層が原因の場合もありますが、余裕のない組織体制が少なからず影響していると思います。とはいえ2030年問題の克服には、さらなる労働生産性向上を達成しなければなりません。DXでカバーできるようになるまでの間、高年齢労働者の増加も相まって、うわべだけでなく本気な健康経営が必要になるのではないでしょうか。労働生産性向上のための健康管理を突き詰めると、結局は運動と睡眠に行き着きます。労働年齢から移動機能・認知機能の保持増進に取り組むことは、将来の健康寿命延伸のためにも極めて重要だと考えています。

長いタイムスパンの重要な課題を認識する他方、今すぐ何とかしてほしいと望まれるのは相も変わらずメンタルヘルスです。不調に陥った当人だけの問題にとどまらず、組織全体の労働生産性に大きく影響するため、解決・防止へのニーズは高止まりしたままです。その期待に応えるためには、メンタルヘルス不調を生じさせにくい職場包容力の醸成に加え、脆弱性を有する労働者への対応が必要です。具体的には、本質理解力が乏しい労働者や知的水準は高いけれどもグローバルな課題把握・解決が困難な労働者、そして、「正当な被害者である自分、不当な加害者である他者」の構図をつくる労働者です。これらの対応を前に進めるため、前段の労働生産性向上策と併せ、会社諸制度への落とし込みという一歩進んだ取り組みを目指す産業医像が臉に浮かぶ今日の頃です。

令和6年能登半島地震ご被災のお見舞いと対策関連情報のお知らせ

日本産業衛生学会 産業医部会長 宮 本 俊 明

この度の令和6年能登半島地震にて被災された皆様へ、心からお見舞い申し上げます。

自治体においては被災された住民の皆様への支援が継続され、企業等の事業体においては事業復旧に向けた作業が進められていることと思います。

今回のような大規模災害において、支援や復旧が速やかに、また安定的に行われるためには、支援活動や復旧作業に携わる皆様の健康と安全の確保が不可欠です。また、毎年のように国内のどこかで発生する大規模災害や事故等に備えておくことも大切になります。

「働く人の健康」を主要なテーマとする日本産業衛生学会では、そのために必要な内外の情報を、本学会の会員やその他の機関と連携して提供して参ります。学会ホームページの「災害・事故対策関連情報」もご参照・ご活用ください。

<https://www.sanei.or.jp/topics/disaster/>



サイト内検索



→] 会員ログイン

> English > お問い合わせ

トップページ > トピックス > 災害・事故対策関連情報

災害・事故対策関連情報

この度の令和6年能登半島地震に被災された皆さん、心からお見舞い申し上げます。

今後、自治体においては被災された住民の皆さまへの支援が継続され、企業等の事業体においては事業復旧に向けた作業が急ピッチで進められると思います。

今回のような大規模災害において、支援や復旧が速やかに、また安定的に行われるためには、支援活動や復旧作業に携わる皆さんの健康と安全の確保が不可欠だと考えます。

「働く人の健康」を主要なテーマとする日本産業衛生学会では、そのために必要な内外の情報を、本学会の会員やその他の機関と連携して提供していきます。

国内の情報

- 産業医科大学 産業生態科学研究所 災害産業保健センター（リアルタイム更新中）
<https://dohcuoeh.com/>
- 自然災害において自分、家族、同僚、地域の健康を守るヒント集（2011年・東北地方太平洋沖地震の際に和田耕治先生が主体となって情報公開したウェブページ）
<https://kojiwada.blogspot.com/2011/03/page-index.html>
- 産業医学推進研究会 災害対応情報リンク集（同会会員より提供された情報を基に作成されたリンク集）
<https://www.sansuiken.org/support/20240104.html>

令和6年能登半島地震の支援者支援



(九州地方会)

産業医科大学 産業生態科学研究所 災害産業保健センター 五十嵐 侑

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、1月12日に石川県保健医療福祉調整本部に入り、J-SPEED班(班長:J-SPEED解析支援チーム/広島大学久保達彦)の中で災害産業保健支援チーム(DOHAT)(リーダー立石清一郎)としての活動を開始した。取り組みとしては、県外からの支援者の健康管理と、被災地域の行政職員の健康管理を行なっている(以下、概要)。

[支援者健康管理版J-SPEED]

石川県保健医療福祉調整本部に入って活動を行っているDMATやDPAT、日赤救護班、JMAT、災害支援ナース、JRAT、DWAT、DICT、DHEAT、さらにはボランティアといった県外から来訪した支援者の健康管理である。被災地では感染症の蔓延もあり、支援者の健康管理の重要性が増している。そこで、J-SPEED+アプリを使って毎日の健康状態を登録するよう呼びかけている。被災地の厳しい状況から、完全に感染症を防ぐことは難しいが、そのような中でも早期に探知し、管理体制につなげることが重要になる。入力されたデータから、災害産業保健支援チームがモニタリングして適切な対応に繋げている。

[行政職員健康管理版J-SPEED]

発災時、行政職員は自らも被災しながらも強い使命感のもとに住民保護に従事することや、極端な職務環境に晒され疲弊することから、行政職員の疲弊対策/健康管理が災害対応の成否に直結する重要課題であることが、これまでの調査により判明している。スクリーニング体制がないと、体調不良に気づかないまま勤務することがある。そこで、毎日の健康状態をJ-SPEEDウェブ版(広島県がCOVID-19対応で整備したJ-SPEED電子システムを広島県の協力のもと緊急整備)に登録するよう行政職員に呼びかけ、入力されたデータを災害産業保健支援チームがモニタリングして適切な個別支援に繋げている。また、集団全体のデータから、災害特有の勤務環境の状況を把握し、各自治体とも連携しながら就業上の配慮などに繋げている。

今回の能登半島地震への対応において、我々産業保健支援チームのミッションは以下の通りである。

- ・災害時の防ぎうる重大な作業関連疾患をゼロにする
- ・被災地域の労働衛生の向上と、労働者の健康障害の最小化に貢献する
- ・活動を通じ被災住民への支援活動に貢献する

支援を行う者も、その支援活動によって健康の問題が発生しうるため、支援者にも支援が必要である(=支援者支援)。我々は、被災者を支援する医療従事者や行政職員の健康を守ることで、被災地域の復旧・復興に貢献したい。



左から、筆者、災害産業保健センター教授の立石誠一郎先生、広島大学公衆衛生学教授の久保達彦先生

産業医部会シンポジウムのご案内

**『第 97 回日本産業衛生学会
産業医部会シンポジウムのご案内』**

産業医部会長 宮 本 俊 明

第97回日本産業衛生学会(2024年5月22日(水)～25日(土)、広島国際会議場・中国新聞ビル)において、下記のとおり産業医部会シンポジウムを開催致しますので、ご案内申し上げます。奮ってご参加下さい。

日 時 2024年5月25日(土) 9:00～11:00 (120分)

会 場 広島国際会議場 B1F 第一会場(フェニックスホール)

テーマ 産業医部会シンポジウム「化学物質の自律的管理に産業医はどう向き合うか」

座 長 三菱ケミカル株式会社 真鍋 憲幸
昭和大学医学部衛生学 山野 優子

演 者 「リスクアセスメント対象物健康診断と産業医の関係 ～産業医部会提言より～」
当学会産業医部会長 日本製鉄株式会社東日本製鉄所 宮本 俊明

「自律的管理に向けて大企業の産業医としての関与」

花王株式会社 清水 智意

「中小企業の経営側にすべきことを届かせるために」

医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院、株式会社 HealthCraft 池上 和範

「健診機関勤務医、かつ嘱託産業医の立場から」

一般財団法人 君津健康センター 山瀧 一

「どうしてよいのか悩ましい実情」

公益社団法人 鹿児島県労働基準協会 小田原 努

リスクアセスメント対象物健康診断は、従来の特殊健康診断のように実施頻度や検査項目が法令で定められていないため、事業者が実施の要否をはじめ、対象労働者の選定、検査項目、実施頻度の設定等について判断をしなければなりません。この度、その判断に当たって健診実施の項目に関する意見を聞かれる産業医等が、どのような情報をもとに、どのように考えれば良いかという考え方を産業医部会でまとめました。

それをふまえ、今回は、化学物質の自律的管理に産業医はどう向き合うかをシンポジウム形式で論じてみたいと思います。演者は、上記の通り、当学会産業医部会長の日本製鉄株式会社東日本製鉄所 宮本より「産業医等がばく露による健康障害発生リスクを適切に評価し、その結果に基づいて述べる健康診断要否の整合性について」を解説いたします。その後、大企業、中小企業、健診機関、また、地方都市における労働衛生支援など様々なお立場からの現状認識や課題について各先生にお話を頂き、ディスカッションをしたいと思います。リスクアセスメント結果に基づいた健康診断の要否および項目等の判断は、運用がはじまったばかりで、混乱を感じている方も多いと思われます。このシンポジウムが一人でも多くの皆様へ参考となれば幸いです。

日本産業衛生学会全国協議会のご案内

『第 34 回日本産業衛生学会全国協議会で
お待ちしております！』

(関東地方会)

企画運営委員長 宮 本 俊 明

このたび、第34回日本産業衛生学会全国協議会を、2024年10月3日(木)から5日(土)の3日間、房総丘陵に位置する「かずさアカデミアホール」を会場に開催することとなりました。地方都市での開催になりますが、快適な会場での開催となりますので、おもてなしも含めて精一杯の準備を進めています。改めてこのような機会を与えてくださった方々に心より感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の世界同時パンデミックへの対策は、新型インフルエンザ対策として従前から構えていた方針よりも数段上の対策が求められ、まさに一寸先は闇といえる状況でした。そのなかでも産業保健職は適切に情報を収集して事業場の対策検討に資することができた事例も多かったと思います。この情報収集には当学会のガイドも少なからず貢献できたことと自負しています。また、2024年度から本格化する化学物質に係る自律的管理という新たな展開は、当誌でも大前先生の連載記事など何度も特集記事になっていますが、健康診断の要否判断や実施する場合の検査項目や実施期間などは今後も産業医の知見が求められることになります。この点においても当部会による要否判断ガイドが大きな役割を果たすことでしょう。

さらに、過労死等の防止対策推進は国民の願いであり、加えて、毎年のように発生する自然災害発生時の関係職場に向けた産業保健の面からの支援も重要となっています。最近の産業保健の現場でもウェアラブル端末、VRやAI等の活用が増えており、従来の知見との併合を要する点では温故知新と言えるそうです。

このように変化が著しい産業保健の世界において、たとえ闇の中であっても光明を見出し、実践的で実効的な産業保健を切り拓いて自らの一歩が道となるような人材を育成し、その活動を社会に還元していく当学会の使命を鑑みて、今回のテーマ「一歩先の産業保健を切り拓け！」としました。その際に日本の産業保健100年弱の歴史から学ぶことも多く、そこから未来につなぐ懸け橋になりたいとの思いも込めてのものです。

多くの方のご参加を願って準備を進めてまいります。託児所も設置予定です。ぜひ現地でお会いしましょう。

<https://sanei-kyogikai2024.com/>

(コンテンツは順次公開予定)

第34回日本産業衛生学会全国協議会
一歩先の産業保健を切り拓け！
～過去から未来への懸け橋に～

会場：かずさアカデミアホール（千葉県木更津市）
企画運営委員長：宮本俊明（日本製鉄株式会社東日本製鉄所統括産業医）

2024年10月3日(木)～5日(土)

全国協議会のバナー

法改正トピックス

『自律型化学物質管理への移行 その5』
産業医の役割の増大

慶應義塾大学 名誉教授 大 前 和 幸

自律型化学物質管理に関する判断主体はリスクマネージャーである事業者であることは当然であるが、化学物質起因の健康関連の判断も事業者判断となっている。しかし、事業者が健康関連の判断をすることは容易ではなく医師の助言が必要になる。医師とは誰を指すのであろうか。

一般論として、事業者が外部に知られたくない情報には以下のようなものがある。

情報A：使用している化学物質：他社製品との差別化ができる製品の特性に決定的な影響を及ぼす化学物質は必ず存在し、これはまさに企業秘密である。

情報B：設備等の変更・新設：使用化学物質の変更や人件費を含む製造コストダウンを目的とした変更を取引先が知ると、技術情報の漏洩や製品価格引き下げ要求につながる。

情報C：当該化学物質の曝露状況：ばく露状況が悪いという情報は、労働者募集や健康経営の評価に強い影響を及ぼす。

情報D：当該化学物質が原因の労働者の健康状態：業務起因性疾患の発生は、労働者本人の不利益であるのみならず、労働者募集や会社の社会的な評価に強い影響を及ぼす。

これら情報A～Dの情報を、社外健康診断機関の医師や労働者の主治医に開示することを事業者は望まないであろうし、開示された医師も対応に困るし実質的に対応不可能でもある。従って、事業者が助言を求める医師は、当該化学物質による健康影響情報を知り、事業者が信頼する専属産業医・嘱託産業医にならざるを得ない。

1 リスクアセスメント対象物健康診断に関わる産業医の役割

リスクアセスメント対象物健康診断（RA健診）の実施判断および健康診断受診対象者の選定は、事業者の判断で決められる。図にRA健診実施判断までの流れを示した。第4項健診は濃度基準値が存在する物質についての流れであり、濃度基準値超でa～eの1項目以上に該当すれば第4項健診実施が事業者により判断され、産業医は健診を実施する。注意すべきは、a～eのすべてに該当しない場合はRA健診を実施しないのではなく、事業者の判断材料となる情報のうちの①が発がんや塵肺等の遅発性影響を発生させる化学物質の場合は②と③を考慮し、⑦については健康障害の有無の情報を伝え、第3項健診実施の可否について事業者に助言することが産業医として必要である。第3項健診の実施頻度は、事業者が産業医の意見を聞いて判断するが、産業医は業務起因性の健康影響の種類を勘案して事業者に意見を伝えることになる。

濃度基準値は設定されていないが信頼できる他機関のばく露限界値が存在する化学物質の場合は、産業医は当該ばく露限界値を濃度基準値と同等と見なすことを事業者に強く勧告し、図のRA健診の流れ

に準じるように促すべきである。

R A 健診において、健診項目の選択と診断と事後措置は産業医の責任と判断で実施されるものであり、今般の法令改正で産業医に課せられた義務事項である。

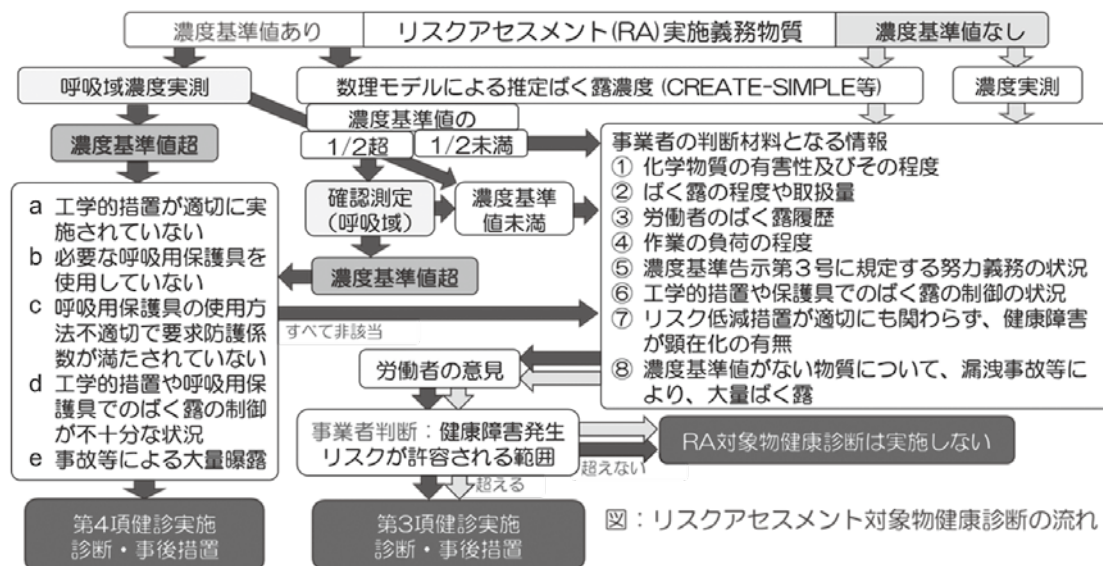
2 同一化学物質ばく露労働者に複数の同種のがん発生時の産業医の役割

「同一の化学物質にばく露」条件の欠落と「一年以内」期間限定で医学的には理解困難な内容となっているが、「同一事業場で、1年以内に複数の労働者が同種のがんに罹患したことを把握」した時の事業者には、業務起因性の判断について「医師の意見を聞く」義務があり、情報Dの観点からは産業医に判断を求めることになるだろう。なお、「1年以内」という期間限定については、細部事項の第3に「例えば、退職者も含め10年以内に複数の者が同種のがんに罹患したことを把握した場合等（後略）」と事業者は10年程度の範囲を考慮するような記載があるが、この場合も業務起因性の判断は産業医が担うことになる。当該物質が既知の発がん物質で、かつ、発がん部位に矛盾がなければ業務起因可能性の判断は容易であるが、未知である場合や発がん部位が異なっている場合の業務起因性判断は困難である。

3 特殊健康診断頻度緩和時の産業医の役割

特殊健康診断の頻度を6月以内に一回から1年以内に一回に緩和できる条件は、1) 当該労働者が業務を行う場所における直近3回の作業環境測定の評価結果が第1管理区分に区分されたこと、2) 直近3回の健康診断の結果、当該労働者に新たな異常所見がないこと、3) 直近の健康診断実施後に、軽微なものを除き作業方法の変更がないこと、の3条件であり、産業医は条件2)の「異常所見」が「業務起因性ではない」ことを担保する判断を求められる。なお、細部事項には、事業者が頻度緩和を判断する際に産業医の助言を踏まえることが望ましいとされている。

今回の化学物質の自律管理に関する法令改正では、産業医については細部事項に「医師には産業医を含む」との記載があるのにも拘わらず、法令準拠型化学物質管理時代と比べて産業医に求められる仕事の質と量は格段に増加している。事業者は、求められる役割を果たせるスキルを有する産業医を雇用する必要がある。



第 33 回 日 本 産 業 衛 生 学 会 全 国 協 議 会 (甲 府)

『第33回日本産業衛生学会全国協議会（報告）
テーマ「多様化する社会と産業保健」』

(北陸甲信越地方会)

第33回日本産業衛生学会全国協議会 企画運営委員長
山梨県医師会理事

小 林 正 洋

2023年10月27日（金）・28日（土）・29日（日）の3日間、第33回日本産業衛生学会全国協議会を山梨県甲府市YCC県民文化ホール及び山梨県立図書館にて開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症5類移行後の開催となり、開催形式は現地開催を主とし、現地開催終了後オンデマンド配信を行いました。現地は3日間とも晴天に恵まれ、盛会のうちに終了し、さらにオンデマンド配信後までに合計1,849名の多くのご参加をいただき無事に学会の日程を終了できました。今回テーマは「多様化する社会と産業保健」とさせていただきました。社会の多様化により、少子高齢化や人生百年時代への対応策、働き方改革、両立支援、新型コロナウイルス感染症の流行など、産業保健分野の課題もますます増加しています。このような状況の中で、産業衛生の専門家の役割や責任も大きく変わっており、どのように多様化した社会に対応して、地域社会や企業と連携しながら働く人の健康を守っていくかが重要なテーマとなっています。

基調講演、2つの特別講演、5つの教育講演、メインシンポジウムと、9つのシンポジウム、4部会合同シンポジウムを主なセッションとして企画し実施され、他産業歯科保健部会、ダイバーシティ推進委員会、中小企業安全衛生研究会などの各部会や委員会も、テーマに沿ったフォーラムや研修会が実施されました。ポスターセッションは114題の一般演題（ポスター）が集まり、19名の座長の先生方をお願いし1演者あたりの持ち時間6分（発表時間4分＋質疑応答2分）と従来の形式で行い、対面形式での活発な発表、討論が行われました（写真）。6つの実地研修プログラムも企画実施され、今回3事業所実地研修が行われました。紙面の都合ですべての企画の御紹介はできませんが、産業医部会シンポジウムが生成AIの産業保健領域への応用可能性というテーマで開催されました。産業保健AI研究会会員のシンポジストの生成AIについての講演を伺い、今後の利用方法や現状での問題点は何かなどが議論されました。また学術委員会シンポジウムでは少子高齢化問題およびそれに伴う労働力不足や社会保障制度等の問題が顕著化する2040年に向けたリサーチマップ作りをテーマに、長年議論されてきた労働安全衛生や化学物質管理など、既存のテーマをもとに新しいテーマを考察し、生成系AIなどの技術革新についても議論されました。産業保健の将来像を考える大変有意義な企画でした。

最後に、ご参加いただいた皆様と関係者の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



一般演題会場風景



ポスター会場



学会場の案内



懇親会（大久保利晃先生乾杯）



閉会式（次回の宮本俊明企画運営委員長挨拶）



番外編（信玄公祭りの富永愛さん）



信玄公祭りの花火と舞鶴城



『産業医部会シンポジウムへ参加して』

(九州地方会)

産業医科大学 産業生態科学研究所
作業関連疾患予防学研究室

安 藤 肇

第33回日本産業衛生学会全国協議会におきましてシンポジウム 6「産業医部会シンポジウム：生成AIの産業保健領域への応用可能性」にシンポジストとして参加させていただきました。生成AIの代表であるChatGPT は2022年末に登場し、瞬く間に世界中で使用されるようになりました。その進化はめざましく、日々アップデートがされております。いずれAIに任せられる仕事が登場することで、産業保健専門職に必要とされる知識やスキルも変化するかもしれません。

1題目はトヨタ自動車株式会社の金一成先生より「生成AI(LLM)を使って産業保健 2.0!」と題してご講演いただきました。生成AIの歴史から各生成AIモデルの状況を概説いただき、産業保健的な視点からの活用例をお示しいただきました。

2題目は北里大学の渡辺和広先生より「生成AIとプロンプトエンジニアリング」についてご講演いただきました。前半は人工知能・生成AIの歴史や理論についての基礎的な知識をまとめていただき、後半は生成AIの指示文の書き方のテクニック（プロンプトエンジニアリング）や仮想のメンターとしてのセリフを生成してみるという使用例をお示しいただきました。

3題目は「生成AI利用における注意点」と題しまして、私の方から講演をさせていただきました。生成AIは便利な活用が可能な一方で様々な注意点や法的に明確になっていない点が多々存在しています。このような点について数式等を用いず、実例を通して解説させていただきました。

まだまだ生成AIを試したことがないという方にも多くご参加いただいておりますが、討論におきましては利用方法の確認に始まり、生成AIをあえて誤った方向に誘導したらどうなるかなど多数のご質問をいただきました。

今回のシンポジストは産業保健AI研究会でも活動しております。生成AI以外を含めたAI全般やPythonプログラミング等を幅広く取り扱っています。ご興味のある方はWebサイト (<https://www.sanpoai.com/>) をご覧ください。

最後に今回シンポジストの機会をいただきました、座長の谷山佳津子先生、西澤依小先生はじめ医部会の皆様、全国協議会の運営をいただきました皆様、参加者の皆様に御礼申し上げまして、私からのご報告とさせていただきます。



シンポジウムの様子



『第33回日本産業衛生学会全国協議会 教育講演 1 を聴講して』

(九州地方会)

三菱重工業株式会社 HRマネジメント部
長崎ビジネスパートナーグループ 健康衛生チーム

安 武 正 矢

皆さんご安全に！ご健康に！三菱重工業産業医の安武です。今回、第33回日本産業衛生学会全国協議会の「教育講演1：自分らしい性が尊重される職場環境づくり～同僚・顧客・取引先に存在するLGBTQ～」を聴講したのでその参加体験記を投稿させていただきます。

教育講演を聞く前までの認識としては、理解はしているつもりながら周囲にはあまりおらず、どこか遠い世界の話とついつい思っていました。講師である清水展人先生の話を押聴したなかで印象的であったのは、「LGBTQの方は凡そ8%≒AB型≒左利き」という事です。もちろん、周囲に左利きの方は多く、AB型の方もいます。「気づきにくいだけで側にいるという感覚を持つことが大切」との言葉と、「安心して語れる職場づくりができているか」という言葉は正に目から鱗でした。周囲にいないと思っているが実はその人が周りにカミングアウトしていないだけという現状にあることすら気づけていませんでした。講演の中では親以外へのカミングアウトは35%前後ある一方で、職場でのカミングアウトは17%という事で6人に1人程度しかカミングアウトをしていない（できない）という状況にあるという情報もありました。産業保健の面から考えると、カミングアウトできていないという事は職場でのストレスに繋がる、例えば、制服がある会社で制服が男女で違うところがありますが、自分の性表現とは違う制服を着る事になっている人がいると考えると、そのストレスはカミングアウトをして理解があれば減らせるかもしれないストレスだと思うと予防できるプレゼンティーズムと考えられるかもしれません。カミングアウトが必須という事ではないですが、自分の事を話せないという環境であってはならず、安心して語れる職場づくりが出来ているかという観点も重要と感じました。そのためには一人一人の理解を深めるための今回のような講演や教育が必要と改めて感じさせられました。小学校・中学校・高校では教育が開始されているとのことでこの先、LGBTQという事を意識しなくて良い社会となっていくと考えられます。産業保健も同じようにどのような方であっても健康に幸せに能力を発揮して働けるような環境整備を続けていく必要があると感じました。

最後になりましたが、この講演開催に関わられた多くの先生方に御礼申し上げ、私の体験記をしめさせていただきます。ご健幸に！



教育講演 1 の様子



三菱重工業産業保健職の仲間たち～明るい夜 ver. ～
(第 97 回産業衛生学会総会幹部の隣卓にて)



『第 33 回全国協議会シンポジウム 1：政策法制度医委員会シンポジウム 「小規模事業場へ産業保健サービスを提供するために」参加体験記』

(関東地方会)

東海大学医学部 基盤診療学系
衛生学公衆衛生学

中 澤 祥 子

筆者は産業医選任義務のない50人未満の小規模事業場の労働衛生コンサルタントの仕事も受けたことがあり、小規模事業場におけるサービス提供はマンパワーと費用の観点から難しいと実感していた。本演題はその課題について議論が行われ、大変勉強になった。

まず柴田英治先生からは、小規模事業場の現状をお話しいただいた。全事業場の95.9%、全労働者の57.6%が小規模事業場に勤務しており、日本における経済活動を支えている。どのような方法で小規模事業場を支えるべきかの選択肢をご提示いただいた。多職種連携、専門職チームで、労働衛生機関や地域産業保健センター等からアプローチする方法、現場の衛生管理者・衛生推進者が押し進める方法、経営者が健康経営を視点として行う方法の3つがあった。宮本俊明先生から産業医の確保についてお話があり、従業員数50人～99人の産業医選任率でさえ80.6%にとどまっており、産業医の数を確保することは困難ではないかとのことである。五十嵐千代先生から大企業における保健師の配置は増加し、産業保健総合支援センターに常勤の保健師も選任されていて活用の可能性があるとお話があった。しかし産業保健看護師の教育や、地域産業保健センターにおける保健師は週に3日の就業制限等の課題はある。橋本晴男先生から化学物質の自律的管理の視点から、化学物質管理者の講習のみで現場の衛生推進者等の教育は十分にできないが、この法改正を契機として、事業場外の専門家を介入させることが必要であるとお話された。

指定発言で歯科保健の観点から加藤元先生から近隣の歯科医が1つの産業保健アプローチの切り口として有用な可能性を示していただいた。また菅原保先生は地域産業保健センターについて、認知度が低く、登録産業医・保健師の質および量を高めることが必要という課題をご提示された。

まとめると、化学物質自律的管理の切り口などから、労働衛生機関や地域産業保健センター、もしくは近隣の歯科医院にて産業医・産業歯科医師・保健師など多職種の専門家を外部専門家グループとして組織し、グループに顧問となってもらい、産業保健の体制づくりや健康経営、現場の衛生推進者の指導教育をしてもらうのが良いと思われる。この方法のためには、中小企業がある程度金銭を負担して良いと考える動機と、中小企業と専門家チーム・そのコーディネーターの信頼関係が必要である。



シンポジウム1の様子



『シンポジウム3「感染症対策と事業継続計画 一次のパンデミックに備えて多職種で考える」に参加して』

(関東地方会)

筑波大学 医学医療系
国際社会医学研究室

堀 愛

第33回産業医産業看護全国協議会2023年10月28日(土) 10:00～12:00シンポジウム3「感染症対策と事業継続計画 一次のパンデミックに備えて多職種で考える」(於：山梨県立図書館 1F イベントスペース)のご報告です。本シンポジウムは、コロナ禍を振り返り、企業における感染症対策と事業継続計画について多職種で検討することを目的に企画されました。座長の中平 浩人教授(新潟青陵大学)・井手 陽子保健師(セイコーエプソン株式会社)の進行で、シンポジスト4名が登壇しました。

はじめに私、堀 愛(筑波大学)が、過去の感染症対策の教訓3点を提示しました。①感染症リスクアセスメントでは流行状況や重症度が変化しうる。また属性によるリスクの違いに留意すべき。②産業保健職には、感染症対策の優先順位を示す役割がある。③差別偏見への対応として、健康情報の取り扱いルールを定めるとよい。

続いて産業看護職の立場から、糟谷 恭子保健師(株式会社キャタラー)より、風疹対策の経験から、発生後の拡大防止よりも未然防止が重要であることが強調されました。

産業医の立場からは、真鍋 憲幸産業医(三菱ケミカルグループ株式会社)より、新型コロナウイルス感染症の初期対応時の、情報が不足する中での意思決定・リモートワーク導入・サプライチェーンの混乱・既存ガイドラインの見直し等を振り返って、重要な課題が提示されました。

最後に事業者の立場から、田中 淳取締役総務部長(大日本法令印刷株式会社)より、自社で作成した新型コロナウイルス感染症対策マニュアルが、社内や取引先、さらに県や国にも活用された経験から、中小企業の感染症対策の裾野を広げる重要性和、専門家への期待をご指摘いただきました。

講演後はフロアを交えて、次のパンデミックに備えるという「正解のない課題」についてパネルディスカッションを行いました。多職種の知見を持ち寄って、言語化や整理を試みる場になったと思います。余談ですが、今回の全国協議会は、第50回信玄公祭りに湧き立つ山梨県甲府市にて開催されました。信玄公祭りの見どころは、世界最大の侍パレード「甲州軍団」。企業名の幟を掲げた武者行列が、信玄公像前にて「エイエイオー」と猛々しい雄叫びを競い合う姿は圧巻でした。最後になりましたが、本シンポジウムを企画された塚原照臣教授(信州大学)に、篤く御礼申し上げます。



シンポジウム3の様子



座長・シンポジスト集合写真



『メインシンポジウム 「多様化する社会と産業保健」の参加報告』

(中国地方会)

UBE株式会社
人事部 健康推進センター 前 野 孝 明

第33回日本産業衛生学会全国協議会(in山梨)のメインシンポジウム「多様化する社会と産業保健」に参加したので、ご報告いたします。座長は山梨県医師会の小林正洋先生と北里大学医学部公衆衛生学の堤明純先生、お二方が務められました。

冒頭で小林先生から、「近年、Diversity&Equity&Inclusion (DEI) の考え方が注目されています。労働者がwork engagement、sense of belonging、Well-beingを実感するために、企業はどのように対応し、職場環境を整えるべきか。産業保健は多様化する社会にどのように対応すべきか、Discussionしていただきたい」と、挨拶がありました。

続いて、オリンパス株式会社の楊文薈先生は「DEIの取り組みはwork engagement向上と職場環境改善に繋がる」「自律性を持つ従業員とDEIが組み合わさることにより、従業員の創造力は伸び、判断力・生産力は向上する」と説明され、経営戦略としてのDEIの価値を提示されました。

その後、筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局の梅田恵先生は、「Sense of Belongingとは会社への帰属意識ではなく、従業員間の相互信頼や『つながり』である」と教示され、全員が参加できる場としてのDEIの概念について言及されました。

さらに、コクヨ株式会社の齋藤敦子先生は「Well-beingが満たされる職場環境は、個人が特性や仕事を踏まえて選択することで構築される。そのため、心身を整える休憩場所や、交流スペースがあると良い」と話され、会社は選択できる環境を用意すべきと提言されました。

最後に、産業医科大学産業保健経営学研究室の森晃爾先生は、「法令準拠型から『職場にあるリスク』を見つけ『多様なニーズ』を満たせる自律的な産業保健活動を目指すため、仮説生成と検証を繰り返す活動を志向する必要がある」と今後の産業保健活動が目指すべき方針を具体的に示されました。

聴講を通じて、自律性のある従業員が互いにbelongingを感じながら働ける環境にすることで、安心して価値を高め合い企業に貢献できる、という自分なりのDEIの概念を得ることができました。また、その考え方は産業保健の専門性を磨くうえでも重要なことであると考えます。このような貴重な場を提供してくださった関係者の皆様に、感謝申し上げます。



メインシンポジウムの様子



『ポスター発表優秀賞を 作業関連疾患予防学が受賞しました』

(九州地方会)

産業医科大学 生態科学研究所 當 合 浩 史
作業関連疾患予防学

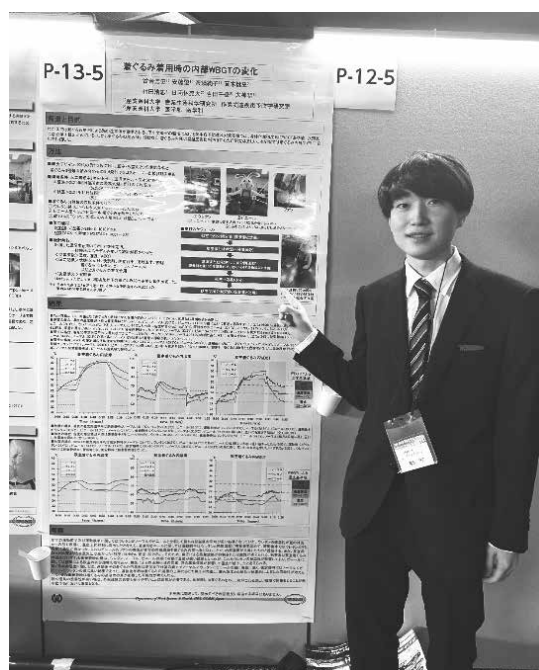
第33回日本産業衛生学会 全国協議会にてポスター発表優秀賞を受賞致しましたので報告させていただきます。まさか受賞するとは夢にも思いませんでしたので、驚くと共に大変嬉しく思っております。最初に申し上げておきたいのですが、今回発表させていただいた研究は産業医科大学 作業関連疾患予防学教室のメンバーで力を合わせて行った研究となります。今回の受賞は私個人の賞ではなく研究室としての受賞と表現した方が正しい解釈となりますので、そのようにご認識いただけますと幸いです。教授の大神 明先生、助教の安藤 肇先生、同じ修練医の奈須 絢子先生、ご指導・ご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

今回、着ぐるみ着用時の内部環境変化について私含め計3名の連番で発表させていただきました。”着ぐるみの環境”という少し珍しい内容でしたので、そこが評価ポイントだったのでしょうか。実は今回の研究テーマの発案者は、産業医科大学医学部医学科の3年生(当時)の学生さん達でした。毎年約3か月程度、学生さん達と一緒に研究活動を行う機会が御座いまして、今回は2022年度に作業関連疾患予防学に派遣された4名の学生さん達と一緒に研究内容の発案から結果の解析・考察まで共に取り組んだものを学会で発表させていただきました。まだ自分自身も経験が浅く、学生さんをサポートするというよりも一緒に悩んで取り組んだ記憶が御座います。その時ちょうど大学の学園祭が近い時期でしたので、その中で一部の他の学生が係の業務の関係で着ぐるみを着て活動する予定とのことでしたので、そこから”着ぐるみの内部環境の研究”という着想に至りました。巷でよく見かけるウレタン製の着ぐるみ、電動ファンで内部が膨らむようになっているビニール製の着ぐるみ、半袖半ズボンの計3つの条件と人工気候室で用意した夏室と秋室の2つの環境下で運動を行って、着ぐるみ内部の温度、相対湿度、CO2濃度等を測定することで、実際の学園祭の作業時にも研究結果を踏まえて作業可能時間や休憩等に応用できるのではないかとのことでした。本研究結果は各着ぐるみの素材の特性が如実に表れる結果となりましたので、学生たちだけでなく実際の職場においても着ぐるみによる熱中症予防を見直すきっかけになるのではないかと思います。

改めまして、この度は受賞させて頂きまして誠にありがとうございました。引き続き何かしらの形で微力ながら産業保健に貢献できるよう頑張っていりますので、宜しくお願い致します。



受賞後に宮本産業医部会長と記念撮影



受賞ポスター



『第33回全国協議会 ダイバーシティ推進委員会 フォーラム報告』

(東海地方会)

ダイバーシティ推進委員会 委員長
ジヤトコ株式会社

西 賢 一 郎

テーマ「多様性のある学会活動—私のキャリアと日本産業衛生学会—」に沿って4部会の会員より報告をいただいた。

西澤依小氏(西日本旅客鉄道株式会社、産業医部会)は、『臨床医』から『専属産業医』となるまで、「道なき道と産衛学会」、「現在の仕事と私のアイデンティティ」と自身の経験や実例を紹介された。臨床医からスタートしたキャリアで、臨床と研究、結婚・出産、専門医を取得し、産業医に転向。現職場は職種や業務が多様性にあふれ、同僚の産業保健スタッフとも協働しながら業務を行っている。先輩産業医の指導を仰ぎ、産衛学会に入会し、活動・研鑽の幅を広げると知り合いも増えていき、学会運営にも参画するようになった。キャリアはゼロでもなんとかなる、地元(北陸)の仲間がもっと増えることを願い、私の師匠は産業医だけでなく、学会も支柱のように支えてくれた存在であると振り返った。

金衣世氏(開業保健師、産業保健看護部会)は、病院勤務から結婚・転職・出産を経て、開業産業保健師となるまでの活動・経験や話をよく聴くことを大切にしたい心理支援に重点を置く活動について紹介された。学会は人とのつながりや、自分の活動が的外れでないことが確認でき、学びの大切な場としていきたいと語られた。

牛澤浩一氏(理化学研究所、産業衛生技術部会)は、研究業務から管理業務といった様々な立場を経験し、学会参加によって知識の修得や発表を通じた研鑽を積み、業務に活用するようにしており、資格も取得し労働関係・安全衛生分野の専門性強化を行ってきた。これまでの経験を活かして活動の場を広げ、多職種との連携・協働を模索してゆくことが語られた。

品田佳世子氏(東京医科歯科大学、産業歯科保健部会)は、予防歯科一筋で研究・教育を行う中で、企業での予防中心の歯科保健事業に携わったことが産業保健に関わるきっかけであったことや産業歯科保健部会立ち上げのご経験をお話された。産業保健を志す方々に職域における効果的なエビデンスを示す、学会発表や論文をもっと発表してほしいとの今後のお願いとしたメッセージをいただいた。

講演後フロアより「登壇者のキャリアが励みとなった」との感想に加え、「学会活動を通して人とのつながりがどのように広がったのか」と質問があった。各演者より、時には意を決して先輩のところに行く環境を作ること、わからないことをアピールして先輩に関わるなかでつながっていったこと、講習会の継続的な参加により仲間が増えていくこと、地方会の幹事になってみることなどが挙げられた。

最後に座長より、学会は学び・成果の発表の場であるだけでなく、人とのつながりの場でもあることを再確認して終了した。



フォーラムの様子

地 方 会 か ら の 報 告

**『2023年度日本産業衛生学会
九州地方会学会に参加して』**

(九州地方会)

産業医科大学
産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学研究室 奈 須 絢 子

2023年11月11日、産業医科大学ラムツイーニホールにて開催された、日本産業衛生学会九州地方会に参加させていただきましたのでご報告いたします。今回の学会はハイブリット開催であり、参加者数はオンライン含め146名と盛大な会でありました。

一般演題は10題であり、産業医、産業保健師、理学療法士、薬剤師など様々な職種の先生方から幅広い視点でのご発表をいただきました。また、教育講演では2名の先生よりご発表いただきました。はじめに、「化学物質の自律的管理：新たな規制が照らし出す化学物質管理の現状と課題」と題し、産業医科大学 産業生態科学研究所 所長の上野晋先生よりご講演いただきました。化学物質の自律的管理が進められている中で、最新の情報を含めたお話をいただき、自身の知識を整理する良い機会となりました。引き続きの教育講演では、「産業保健分野における AI 革命：労働者の健康と生産性を向上させるIoT の活用について」と題し、労働者健康安全機構 福岡産業保健総合支援センター 所長の筒井保博先生よりご講演いただきました。AIの基本的な知識や生成AIの活用法について解説いただき、AIの得手、不得手をきちんと理解した上で、上手く産業保健分野で活用していく必要があることを学びました。

また、特別公演は元日本テレビアナウンサーの大神いずみ様より「聴く話術～その目線の高さで伝える言葉」というテーマでご講演いただきました。アナウンサーとしての経験や、子育ての経験を踏まえた様々なエピソードをお話いただき、同じ目線で話をする事の大切さを改めて感じさせられました。

今回、懇親会は残念ながら開催されませんでしたが、昼休憩の後に「交流ティータイム」と称した会員の交流時間が設けられておりました。ホールのラウンジにて、お菓子や飲み物を片手に多くの先生方と交流することができ、ポストコロナ時代下での新しい交流の機会になったと感じております。最後になりますが、このような素晴らしい会の運営に携わる機会をいただけたことに感謝して、ご報告とさせていただきます。



交 流 テ ィ ー タ イ ム の 様 子



『令和5年度 関東産業医部会産業医研修会に参加して』

(関東地方会)

Basical Health 株式会社 佐藤 文彦

2023年11月に東京慈恵会医科大学内講堂にて、関東産業医部会産業医研修会に参加しました。プログラムは、更新・専門の単位が取れる、化学物質管理から医師の働き方改革まで、まさに最新の注目されている話題が網羅された、非常に充実した内容でした。座長は長谷川将之幹事が務められました。

1. 「実地に則した化学物質管理における産業医の役割」専門1単位

労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター 山本健也先生

2. 「オキュペイショナルハイジニストから見た産業医の実務/指導/助言・課題・展望」専門1単位

帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 津田洋子先生

3. 「騒音障害防止のためのガイドラインの改訂について」更新1単位

佐々木労働衛生コンサルタント事務所 佐々木直子先生

4. 「医師の過重労働対策 産業医実地臨床」専門1単位

三井記念病院 精神科部長 中嶋義文先生

講演1では山本先生から、化学物質管理における産業医の役割として知っておくべきポイントとして、特に「リスクアセスメント」について、法律上の位置づけから、測定方法、健康診断における要点等を、具体的に示していただきました。

講演2では認定オキュペイショナルハイジニストである津田先生から、リスクアセスメント・リスクマネジメントのプロとして具体的にどのように資格を取得し、活動されているのか説明され、特に第3管理区分の作業場に対し、産業医と連携しながらどのように職場改善支援に対応することが可能であるかについて解説されました。

講演3では佐々木先生から、「騒音障害防止のためのガイドライン」改訂についてのポイントとして、特に聴覚保護具の選定基準や、騒音の個人ばく露測定の意義やその方法について、ご自身の豊富な経験を基にお話しいただきました。

講演4では中嶋先生から、2024年度から開始される「医師の働き方改革」において、特に「面接指導実施医師」が長時間労働医師への面接指導を行う際に、実際に求められる役割として、産業医や管理者等との連携や、医師への面接指導のコツについて分かりやすく説明いただきました。

やはり、最新のトピックを講師の先生方から直接伺うことができると、リアル開催の素晴らしさを改めて実感することができます。会場も満席に近い先生方に参加していただき、盛会に終了することができました。



『第28回近畿産業医部会研修会参加体験記』

(近畿地方会)

日本製鉄株式会社
関西製鉄所 河 邊 明 男

2023年11月18日に第28回近畿産業医部会研修会が開催されました。「オンラインを活用した産業保健活動」をテーマとし、基調講演とシンポジウムが行われましたので、参加報告させていただきます。

基調講演では、岩根幹能先生(日本製鉄株式会社関西製鉄所、近畿地方会産業医部会部会長)座長のもと、梶木繁之先生(株式会社産業保健コンサルティングアルク、遠隔産業衛生研究会代表世話人)が「オンラインを活用した産業保健活動～活用場面と注意点～」というテーマで講演されました。講演では、「遠隔産業保健」が「空間・時間的距離のある2点を結びつける機器を活用した産業衛生活動」であること、遠隔での産業医面接は医療行為に該当しない産業医活動にあたり、様々な場面で有効に活用できることを改めて認識しました。また、遠隔面談の促進要因や阻害要因、デメリット低減策を具体的に提示いただき、今後の産業医活動の基盤となる知識を得ることができました。

シンポジウムでは、深井恭佑先生(株式会社リードウェル)座長のもと、「オンラインを活用した産業保健活動の実際と今後について」をテーマに、森貴大先生(住友電気工業株式会社大阪本社)、黒木仁美先生(一般財団法人京都工場保健会)の発表の後、梶木先生を含めディスカッションが行われました。森先生は専属産業医の立場から、オンラインの活用方法に焦点を当て、社内でのコミュニケーション、面談、会議、社内研修等においてオンラインツールを積極的に活用していることを、社内事例を踏まえ講演されました。黒木先生は労働衛生機関所属の立場から、中小企業におけるオンラインでの産業医活動に焦点を当て、ご自身の経験を通して、起こり得るトラブルや今後の課題について講演されました。

今回の研修会では、オンライン産業保健活動の基礎となる法律や規則を知ることが、今後の活動を進めていく上での指針になることを再認識いたしました。また、具体的事例を通して、現場では通信上のトラブル等の問題も多々発生することから、事前準備が重要であること、労働者との関係性を考慮した上でオンラインツールを活用するか否かを決める必要があることを学びました。講演で多くの知見を提供いただいた先生方に感謝し、今後の産業医活動に生かして参ります。



研修会の様子



『「第67回中国四国合同産業衛生学会」参加報告』

(四国地方会)

一般財団法人創精会 松山記念病院
精神科 昇 淳一郎

令和5年(2023年)12月2日(土)～12月3日(日)の二日間、標記地方会が、愛媛県松山市の愛媛大学城北キャンパスにおいて開催されました。学会長は愛媛大学大学院医学系研究科疫学・公衆衛生学講座教授の三宅吉博先生で、メインテーマとして「すべての就業者に産業保健を届ける」が掲げられ、多彩なプログラムが展開されました。会期中は好天にも恵まれ、多くの参加者を得て、各会場において活発な討議が繰り広げられました。プログラムの概要は次の通りです。

- | | | |
|------------|-------------|---|
| 第1日(12月2日) | 10:30～13:00 | 産業衛生技術部会 研修会 |
| | 13:30～15:00 | 産業歯科保健部会 研修会 |
| | 14:00～16:00 | 産業保健看護部会 研修会 |
| | 14:00～16:30 | 産業医部会 研修会 |
| | 16:40～17:30 | 中国地方会役員会／四国地方会役員会 |
| | 17:30～17:55 | 合同役員会 |
| | 18:00～20:00 | 懇親会 |
| 第2日(12月3日) | 9:00～10:00 | 特別講演Ⅰ |
| | | 産業医だからできること、産業医としてすべきこと
VISION PARTNERメンタルクリニック四谷 尾林誉史先生 |
| | 10:10～11:10 | 特別講演Ⅱ |
| | | ウィズコロナ時代の産業医、産業保健師等の役割について
岸田労働安全衛生コンサルタント事務所 岸田健夫先生 |
| | 11:20～11:50 | 総会 |
| | 11:50～13:00 | 一般演題 |

このうち、四国地方会産業医部会としまして、中国地方会産業医部会との共催で、第1日目の産業医部会研修会の企画運営を行いました。同研修会では、日本頭痛学会専門医である野口俊治先生(きたじま田岡病院)の基調講演の後、課題演習として、治療と仕事の両立支援プラン作成を行いました。限られた時間ではありましたが、頭痛診療の最新情報の一端を知ること、産業保健実践場面での活用に向けた新たな視座を得ることができました。

なお、同研修会は日本医師会認定産業医制度の生涯／実地研修として実施した影響もあってか、当地での開催としては、例年以上となる約30名と多数の方々にご参加いただきました。この場をお借りいたしまして、関係の皆様へ御礼を申し上げます。次年度につきましても、中国地方会産業医部会との連携を図りながら研修会の企画検討を行ってまいります。



産業医部会研修会の様子

第28回 産業医プロフェッショナルコース



小森 陽子

色川 俊也

山本 誠

『開催報告』

主催 日本産業衛生学会 産業医部会
後援 一般財団法人 労働衛生会館

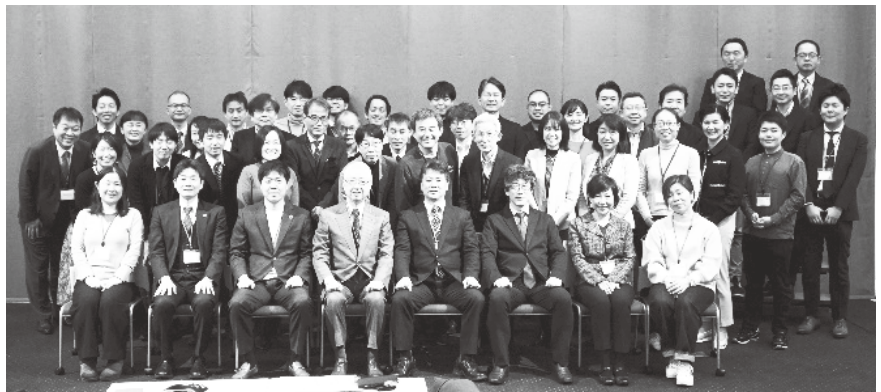
実行委員長 小森 陽子、色川 俊也
企画運営委員長 山本 誠

2024年1月27、28日にMELONDIAあざみ野で第28回産業医プロフェッショナルコースを開催しました。テーマは「あなたが問われる産業医の胆力」として、国内初の職業性胆管がん発生が報告された印刷会社、株式会社SANYO-CYP代表取締役兼CEOの山村健司様、本学会元理事長であり、胆管がんの労災対応で行政の先頭に立ってご指導された圓藤吟史先生、そして昨年に引き続き、自律的管理におけるリスクアセスメント健診の政策立案に関わっておられる労働安全衛生総合研究所の山本健也先生をお招きしてご講義いただきました。参加者数は、現地30名、web42名と過去最大となりました。

今回のテーマで意図したことは、未評価の化学物質を原因とした健康被害が発生した際の産業医としての対応を疑似体験し、さらには企業の危機的状況を乗り越えた事業者のリーダーシップや社員の結束、産業医・産業保健スペシャリストの関わりを学ぶことで、前例のない困難に対峙した際に必要な胆力・対応力とは何かを当事者として考え、今後の行動につなげていただくことでした。

2日間の中で印象的だったのは、1日目の講義の最後に「胆管がん問題への対応やその後パーパス経営、最高レベルの安全衛生活動は、山村社長だからできたのではないのでしょうか？」という質問に対して、山村様から「私だからできたということではないです。胆管がん問題が発生しても8割の社員が会社に残ってくれました。社員に感謝しかなかったです。感謝があったから乗り越えられたと思います。」とご回答頂いたことでした。困難に対峙する胆力に加え、周囲への感謝を行動にうつし積み重ねていく継続力が大切であるというリーダーシップの真髄にふれる内容となりました。そして、2日目の山本先生の講義では、「化学物質の自律的管理」という難題に対峙するために必要不可欠な知識を習得していただけたものと信じております。

さらに、恒例の懇親会は、二次会まで密度の高い親交を楽しく深めることができました。最新の知識取得だけでなく、多くの参加者が「自分も難題に対峙した際に逃げない産業医でありたい」と心動かされる企画となり、実行委員一同、大きなやりがいを感じることができました。当日、講師をご快諾いただきました先生方をはじめ、医部会幹事の先生方、参加者の皆様に感謝申し上げます。医部会員の皆様には今後ともご支援下さいますようお願い申し上げ開催のご報告とさせていただきます。



全体写真



1日目(講師：山村健司様)



2日目(講師：圓藤先生)



『産業医プロフェッショナルコースに参加して』

(近畿地方会)

ロート製薬株式会社 大 林 知 華 子

今回、初めて産業医プロフェッショナルコースに参加しました。以前からこのコースの存在は知っていましたが、大阪に住んでいることもあり、「わざわざ東京に行くのも…」と思い参加をためらっていました。しかし今回はテーマが化学物質で、さらに胆管がん事例の大阪の印刷会社株式会社SANYO-CYPの山村社長が現地で講義されると知り、こんな機会は滅多にないと思いつぐに参加を決めました

1日目は山村社長が、胆管がん問題発生時とその後の対応について、詳細に話されました。連日マスクに張り付かれたこと、社員の家族を守るために退職を勧めたものの社員が退職を拒否したことなど、普段聞くことのできない臨場感にあふれた話ばかりでした。山村社長の話を聞くまでは、コストを重視して健診も受けさせず劣悪な環境で働かせていたから労災が発生したのだらうと思っていましたが、その考えが完全に間違っていたことが分かりました。胆管がんが発生する以前に肝機能異常を呈する社員が複数名出た際、検査を受けさせたり、作業環境測定をしたり、使用する化学物質を変えたりとできる限りのことを行っていました。しかし産業医もおらず、相談先も分からずという状態だったため、できることが限られていたとのことでした。「社員は負け戦と一緒に戦った仲間で、僕は社員に感謝を伝え続けるだけ」と社員を何よりも大切に思っている山村社長の姿勢が伝わってきました。

労災発生後、胆管がん問題の解決に当たったのが圓藤先生でした。圓藤先生は、どのように問題解決していったか、その際どんな困難があったのかを話されました。圓藤先生と山村社長との話ぶりから、二人の間の深い信頼関係が伝わってきました。圓藤先生は「やる前には胆力はない、やってから胆力がつく。逃げないことが大事。」と話され、これは産業医の業務全般に通じるものだと思います、深く心に響きました。

2日目は化学物質の自律的管理について、山本先生が実践的な内容を講義されました。ある化学物質を使用していると仮定して、グループでそのリスクや対策について話し合いました。普段、複数の産業医で話し合いながら業務をする環境ではない私にとって、6名で和気藹々と話し合えたのは新鮮でとても楽しかったです。

講義以外の時間も、休憩や懇親会を通じて、普段は聞くことのできない話を多くの先生方から伺うことができ、参加者同士の交流も深めることができ、参加して本当に良かったです。Pコースを支えて下さった全ての先生方に心から感謝申し上げます。



2日目(講師:山本健也先生)



グループワーク



グループワーク後の発表



『第28回産業医プロフェッショナルコース参加体験記』

(東海地方会)

日本特殊陶業株式会社 川 瀬 崇 裕

2024年1月27日と28日の両日、神奈川県横浜市にあるMELONDIAあざみ野で、第28回産業医プロフェッショナルコースが開催されました。このプログラムに参加することで、産業医としての知識と技術を一層深めることができた貴重な機会となりました。

コースの初日は「事業者と産業医の倫理観と責任について」をテーマに展開され、職業性胆管がん問題をめぐる事業者側代表のSANYO-CYP代表取締役兼CEOである山村健司先生と、中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター所長である圓藤吟史先生による深みのある講義が行われました。この日のグループワークでは、倫理観と責任を巡る濃密な議論が展開され、産業医としての適切な行動指針について考える貴重な機会となりました。

続く2日目は、「職場の化学物質の自律的な管理」という重要なテーマに焦点を当てた講義となりました。特に、曝露限界値が設定されている化学物質に関するリスクアセスメントのアプローチについて深掘りし、実測に基づくリスクアセスメントの実施方法（作業環境測定、個人曝露測定、検知器の使用、リアルタイム測定等）をグループごとのワークショップ形式で行い、リスクを「有害性（危害の重篤度）×曝露（発生の可能性）」と定義し、この基本原理に基づき、実践的なリスクアセスメントのアプローチを学ぶことができました。

特に実際の物質名を使ったケーススタディでは、リスク評価から作業環境の管理や作業管理、特殊健診の項目などの健康管理に至るまで、労働衛生の3つの管理を軸にしたリスク管理の実践的側面を深く理解することができました。

1日目の終わりには、懇親会が開催され、様々な企業で活躍する産業医の先生方との交流や、スタッフの平野井先生によるマジックショーを楽しむことができました。このようにして、知識の習得と同時に、楽しみながらつながりを深めることができる貴重な経験を得ることができました。

この2日間の学びは、産業医としての知識とスキルを深め、職場での健康管理と労働安全促進活動への貢献に大きな自信を持つことができるようになったと思います。企画・運営に尽力されたすべてのスタッフの先生方に、心から感謝の意を表します。



2日目（座長：長谷川先生、江口先生）



懇親会（宮本先生乾杯）



平野井先生マジック

シリーズ は じ め ま し て !



『産業医とは、なんて楽しい職業!!』

(東海地方会)

株式会社豊田自動織機 井 山 裕 子

はじめまして、小児泌尿器科医から産業医に転職して4年目の井山裕子(いやま ひろこ)です。現在、週5日、フルタイムで産業医活動をしています。

今、産業医になって良かった〜〜!!と、心から思っています。「人とのつながり、温かさ」を感じる数々のことが重なってきたからと思います。

入社当初、安全衛生委員会で産業医の発言時間は1分でした。1分で、いかに自分をアピールできるか必死に考えたことが懐かしいです(もちろん、役立つ発言が一番の目的です。ですが、信頼を得ないと話にならないので)。それから地道に発言時間を獲得していき(笑)、今では、工場長の最後のまとめ発言で毎回「井山先生が言われた…」と、コメントや、要点を繰り返していただけるようになりました。委員会運営の方と毎回、委員会テーマを決めたり、対話形式になるようにしたり、委員会が変わってきているのを嬉しく思っています。そして、社員の方から「先生、血圧が高いって怖いんだね、家でちゃんと測ってるよ」などの生の言葉を聞くと、とても嬉しく、私自身のモチベーション、well-beingもあげ↑↑↑いただける、人のつながりを日々感じています。

18年の泌尿器科医人生は、手の疾患でメスを置かざるをえなかったのが、この先、自分の人生がどうなってしまうのだろう、、と悩みました。ですが、こんな楽しい職業に就けたことに感謝し、日々勉強、楽しみながら精進していきたいと思っています。

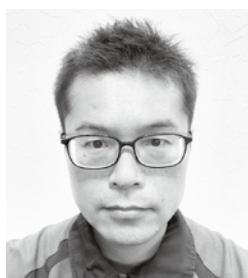
私の趣味は5年前から始めたマラソンです。写真は昨年、初めてフルマラソンに出場し、なんとか5時間以内で完走したゴールの写真です。42kmのうち、35kmくらいでプルプル足が震え、「帰りたい…もう帰りたい…」と何度も思いながら走ったのに、ゴールの喜びからか、今は、次の大会で4時間30分をきるぞー!と、ランニングで通勤(片道6km)したり日々練習している自分がいます。産業医活動も、大変なこと(難題や、うまく伝わらなかったり…)もありますが、それを解決できた時の喜びを重ね、最後は、良かった!!と引退する日を夢見て、社員・ステークホルダーの方々の健康と幸せに寄与できるよう、一日一日、一つ一つのことを丁寧に行っていきたいと思っています。

ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



初めてのフルマラソンで完走

シリーズ 私たち頑張ってます！



『四国地方会オータムセミナーに参加して』

(四国地方会)

三菱ケミカル株式会社
人事本部 Japan人事部 健康支援グループ(香川) 森 山 貴 弘

2023年11月3日に松山市で開催された四国地方会オータムセミナーに参加しましたので、報告いたします。私は2004年産業医科大学卒業の森山貴弘と申します。同大学泌尿器科で専門医取得後、義務年限のため、岡山県の淳風会健康管理センターでお世話になりました。その後1年ほど徳島県の病院で勤めたものの、産業保健が意外と合っていたこと、家族の事情もあり、香川県の瀬戸健康管理研究所へ転職し、現在は同門の先輩である真鍋憲幸先生にお誘いいただき三菱ケミカル株式会社香川事業所の産業医をしています。労働衛生コンサルタントを取得していたものの、臨床系の産業医だとこんなものかと勝手に線引きしていたため産業衛生学会専門医を持っておらず、まだ専攻医です。学会にもあまり行っておらず幽霊部員みたいな存在でしたが、これからがんばります…

さて、今回のオータムセミナーでは、中四国エリアの産業医の重鎮であられる鎗田労働衛生コンサルタント事務所の鎗田圭一郎先生に「産業医活動の実際」を語っていただきました。鎗田先生は産業医科大学1期生のご入学であり、大学の大先輩であります。その当時、産業医科大学の卒後修練の制度が整っておらず、大変苦労をされたと(他の大先輩の先生方からも)伺っています。大学をご卒業後にマツダ(株)の専属産業医としてご勤務されています。数万人の従業員に対し、当初の産業医は鎗田先生ほぼお一人で対応されたとのことで、様々なご苦労・ご経験を語っていただきました。CTD(反復性外傷障害(職業性頸肩腕障害))への労働衛生教育・CTD健診、騒音作業と耳栓着用による聴力比較研究、じん肺/石綿肺への対応、有機溶剤・特化物への対応、新入社員による結核の集団感染、生活習慣病対策、メンタル疾患の事例対応、と言った様々なご経験を詳細にご説明いただきました。その際、会社の役員に産業医の立場を理解してもらい、ご協力頂いたと伺いましたが、鎗田先生のお人柄あつてのものだと感じました。また、マツダ病院の内科・精神科等にもご勤務されており、実臨床の経験を積めたこと、従業員への検査がすぐに行えたことなど、企業立病院がある大企業で勤務する専属産業医の意外なメリットを知ることができました。

現在、鎗田先生はいわゆる独立系産業医として事務所を開設されておられます。特にメンタル疾患や発達障害のある従業員にブルドン抹消検査を行っており、業務遂行能力やメンタル状態を把握する一助となっているとのことで、産業医面談時の手段の一つとして興味深く感じました。そのほか、独立系産業医のやりがいと収入(!)、大変さも面白く教えていただきました。

参加人数は講師の鎗田先生を含めて9名と、産業医のみの内輪の話と言うこともあって、自殺や石綿肺、結核の集団感染といった社外にオープンにしにくい事例について、貴重なご講演を聴くことができました。

セミナー後の懇親会には8名の先生方が参加され、近くのCoffee & Beer Rootsと言うカフェバーでおいしい地ビールと自家焙煎コーヒーを片手にお互いの親睦を深め、解散しました。



四国地方会オータムセミナーの様子

産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(2024 年 5 月～2024 年 12 月)

開催 年月	産業医部会	地方会	名称	日時・開催地
5 月	2024 年度 第 1 回幹事会			2024 年 5 月 12 日(日)9:00-12:00 Web 開催
	第 97 回 日本産業衛生学会 産業医部会フォーラム			2024 年 5 月 24 日(金)15:50～17:50 (15:20～総会、総会終了後) 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 1 会場 (フェニックスホール)
	第 97 回日本産業衛生学会 産業医部会シンポジウム (シンポジウム 17)			2024 年 5 月 25 日(土)9:00-11:00 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 1 会場 (フェニックスホール)
	社会医学系専門医制度 協会認定講習	専門医制度説明会		2024 年 5 月 23 日(木)16:00-17:00 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 8 会場
		指導医講習会		2024 年 5 月 23 日(木)13:40-14:40 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 5 会場
		社会医学系専門医制度 必修プログラム		2024 年 5 月 22 日(水)9:30-12:30 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 2 会場
	産業衛生 専門医制度関連	産業衛生指導医講習会		2024 年 5 月 23 日(木)14:50-15:50 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 5 会場
		専攻医試験		2024 年 5 月 23 日(木)17:00-19:00 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 8 会場
	2024 年度 第 2 回幹事会			2024 年 5 月 25 日(土)12:25-13:25 第 97 回日本産業衛生学会 広島国際会議場 第 8 会場
	6 月			
7 月		東北地方会	東北地方会第 27 回 産業医協議会	2024 年 7 月 27 日(土) 15:10-16:40 東北大学医学部星陵会館 (仙台市)
8 月	会報 第 81 号(2024 年 8 月号)発行予定			
	産業衛生専門医制度関連	日本産業衛生専門医試験		2024 年 8 月 24 日(土), 25 日(日) パナソニックリゾート大阪(大阪府吹田市青葉丘南 10-1)
	社会医学系専門医制度関連	社会医学系専門医制度 専門医試験		2024 年 9 月 7 日(土)筆記試験 8 日(日)口頭試験
10 月	第 34 回日本産業衛生学会 全国協議会			2024 年 10 月 3 日(木)～5 日(土) かずさアカデミアホール (千葉県木更津市)
	2024 年度 第 3 回幹事会			未定
	第 34 回全国協議会 産業医部会 自由集会			2024 年 10 月 3 日(木)～5 日(土) かずさアカデミアホール (千葉県木更津市)
	社会医学系専門医 制度協会認定講習	指導医講習会		2024 年 10 月 3 日(木)～5 日(土) かずさアカデミアホール (千葉県木更津市)
		専門医制度説明会		2024 年 10 月 3 日(木)～5 日(土) かずさアカデミアホール (千葉県木更津市)
		北陸甲信越 地方会	2024 年度日本産業衛生学 会 北陸甲信越地方会 第 67 回総会・学術集会	2024 年 10 月 20 日(日) 石川県金沢市
11 月		近畿地方会	第 29 回近畿産業 医部会研修会	2024 年 11 月 9 日(土)午後 大阪産業創造館 4 階イベントホール (大阪府大阪市中央区本町 1-4-5)
		北海道地方会	2024 年度日本産業衛生 学会北海道地方会総会	2024 年 11 月 16 日(土)10:00-17:00 札幌医科大学 教育研究棟(札幌市中央区南 1 条西 17 丁目)
		中国・四国 地方会	第 68 回中国四国 合同産業衛生学会	2024 年 11 月 23 日(土)～24 日(日) 岡山大学鹿田キャンパス(岡山市)
12 月	会報 第 82 号(2024 年 12 月号)発行予定			
		関東地方会	第 1 回関東地方会学会	2024 年 12 月 6(金)～7 日(土) ホテルメトロポリタン高崎(群馬県)

内容等	その他
テーマ:多様化かつ高度化する産業医業務のスキルアップと実務支援 ～産業医の生涯教育のあり方の模索～ 座長:塩田直樹先生(UBE 株式会社人事部健康推進センター) 各務竹康先生(福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座) 演者:①日本医師会の産業医支援の取り組み 神村裕子先生(公益社団法人 日本医師会) ②産業医に求められるもの、産業医が求めるもの 斎藤恵先生(徳島産業保健総合支援センター、㈱日亜化学工業) ③若手産業医のスキルアップ～地方、一人専属産業医の立場から 松本理先生(株式会社東北村田製作所) ④「産業医 五十の手習い」臨床医から産業医に、そして最底辺からのスタート 岡本昭夫先生(一般社団法人京都工場保健会) 指定発言:大神明先生(産業医科大学)	主催 : 日本産業衛生学会産業医部会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/program/index.html
座長:真鍋憲幸先生(三菱ケミカルグループ株式会社) 山野優子先生(昭和大学医学部衛生学公衆衛生学教室) 演者: ①リスクアセスメント対象物健康診断と産業医の関係～産業医部会提言より～ 宮本俊明先生(日本製鉄株式会社東日本製鉄所) ②自律的管理に向けて大企業の産業医としての関与 清水智恵先生(花王株式会社) ③中小企業に向けて 池上和範先生(株式会社 HealthCraft、桜十字福岡病院) ④健診機関勤務医、かつ嘱託産業医の立場から 山瀧一先生(一般社団法人 君津健康センター) ⑤どうしてよいのか悩ましい実情 小田原努先生((公社)鹿児島県労働基準協会ヘルスポートセンター鹿児島)	主催 : 日本産業衛生学会産業医部会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/program/index.html 社会医学系専門医制度 選択受講項目 K 単位付与予定
内容は後日ご案内いたします。	第 97 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/index.html 社会医学系専門医制度 選択受講項目 K 単位付与予定
内容は後日ご案内いたします。	第 97 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/index.html 社会医学系専門医制度 選択受講項目 K 単位付与予定
(感染対策) 産業保健スタッフが知っておきたい感染症のいろは (医療安全) 医療安全を支える医療従事者の安全健康と労働災害防止 (医療倫理) 倫理指針の読み方・使い方 ※内容の詳細は後日ご案内いたします。	第 97 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/index.html 社会医学系専門医制度共通講習「医療倫理」「感染対策」「医療安全」K 単位付与予定 (その他の社会医学系専門医制度の単位がつく講座は学会 HP 内にて順次発表予定)
内容は後日ご案内いたします。	第 97 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/index.html 社会医学系専門医制度 選択受講項目 K 単位付与予定
内容は後日ご案内いたします。	第 97 回日本産業衛生学会 https://convention.jtbcom.co.jp/sanei97/index.html
講師:鈴木貞夫先生(名古屋市立大学大学)	第 83 回日本産業衛生学会東北地方会 7 月 26 日(金)～27 日(土) 学会長 黒澤一 (東北大学大学院医学系研究科産業医学分野)
資格審査受験申込受付期間:2024 年 5 月 1 日～31 日(消印有効)	詳細については日本産業衛生学会専門医制度委員会 HP (https://ssl.jaoh-caop.jp/) にてご確認ください。
筆記試験:全国各会場にて C B T 方式 口頭試験:完全オンラインにて開催	詳細については社会医学系専門医制度協会 HP (http://shakai-senmon-i.umin.jp/) にアップ予定。
メインテーマ:一歩先の産業保健を切り拓け! ～過去から未来への懸け橋に～	詳細が決まりましたら、第 34 回日本産業衛生学会 全国協議会 HP https://sanei-kyogikai2024.com/ にアップいたします。
内容は後日ご案内いたします。	詳細が決まりましたら、第 34 回日本産業衛生学会全国協議会 HP https://sanei-kyogikai2024.com/ にアップいたします。
内容は後日ご案内いたします。	
内容は後日ご案内いたします。	
内容は後日ご案内いたします。	詳細が決まりましたら、北陸甲信越地方会 HP http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/pmph/sanei-chihoukai/index.html にアップいたします。
実行委員長:出雲谷恭子先生(大阪市総務局) メインテーマ:産業保健におけるアルコール対策	詳細は日本産業衛生学会近畿地方会 HP、産業医部会タブからご確認ください。
詳細未定	大会長:大西浩文先生(札幌医科大学 公衆衛生学講座) 主 催:日本産業衛生学会北海道地方会
詳細が決まりましたら、HP 等でご案内します。	大会長:高尾総司先生(岡山大学疫学・衛生学)
詳細は後日ご案内いたします。	大会長:浜崎景先生(群馬大学大学院・公衆衛生学分野)

編集委員会よりお知らせ

(1) 医部会報における二重投稿(著作物)の考え方

一般的に、新たな創作性の認められない①ありふれた表現 ②歴史的事実やデータ ③事実の伝達にすぎない報道等 ④法律や裁判所の判決等 などは著作物にあたらないとされています。したがって、編集委員会としては、他媒体に既掲載のものと一言一句、同一の原稿は二重投稿と判断しますが、事実記載が一部同一であるだけでは二重投稿とみなしません。投稿者が判断に迷う場合は、申し出に応じて、編集委員会で個別に審議のうえ判断します。また著作物(文章・画像)を医部会報へ転載・引用する場合は、著作権者の許可を得るか、引用を明記して、許可・引用の範囲内で適切に使用してください。

参考：(公社)著作権情報センター(CRIC) <https://www.cric.or.jp/qa/hajime/hajime1.html>

(2) 部会員からのお知らせコーナー ご活用ください

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や著書紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿(字数400字程度+写真1枚)をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

(3) 自由投稿を歓迎します

部会報は部会員の交流の場です。編集委員会として、より多くの皆様のご意見などを紹介したいと考えています。1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

(4) バックナンバーは産業医部会ホームページにて公開しています。

<https://sangyo-ibukai.org/kaiho.html>



(5) ご意見をお待ちしています

皆様のご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。

【事務局連絡先】(公社)日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール：sanei4bukai@nifty.com TEL：03-3358-4001 FAX：03-3358-4002

編集後記

この度の能登半島地震にて被災された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。また復旧支援活動に携われる皆様の健康と安全につきましても、祈念申し上げます。

今号2ページでも宮本俊明 産業医部会会長よりご案内しておりますが、学会ホームページの「災害・事故対策関連情報」(<https://www.sanei.or.jp/topics/disaster/>)がリアルタイムで更新中ですので、ぜひご参照・ご活用ください。(原 俊之)

編集委員会委員

池 上 和 範(桜十字福岡病院)

谷 山 佳津子(朝 日 新 聞)

◎○原 俊 之(北海道労働保健管理協会)

◎：委員長、○：第80号編集担当(五十音順)

石 川 浩 二(三菱重工)

西 澤 依 小(JR西日本)

真 鍋 憲 幸(三菱ケミカル)